

Colombine

Hyacinthe Lavitrano(?～1938.2.16)

道化師

イヤチント・ラヴィトラノ作曲

この作曲者の作品で日本では大正の後期から次の三大作がよく馴染まれていた。

ロ-ラ序曲 イル・マンドリーノ 1902 年 9 月出版

レナータ序曲 レステュディアンティナ誌 1910 年 5 月出版

雪(ロマンツァとボレロ) イル・プレットロ 1910 年 2 月出版

その後杳として消息を断っていたこの作者は 1933 年、突如、北アフリカのアルジェリアから新作数曲をレステュディアンティナに提供した。

その中の一曲である。

この曲が日本に存在したのは戦時中にも拘わらず同誌を購読していた京都の医師、鳥井諒二郎(故人)氏のお陰で、光を見出した筆者は逸早くコピーして同好者に頒布した時、誤って「小鳩」と訳し腑に落ちないので、調べてみると、これがパントマイム(無言劇)に現れる道化師を指すことが判った。

トリオに現れる一抹の漂う哀愁がまさにそれを指している。

追加資料

遺稿

中野二郎編著

「マンドリン ロマンの薫り 2 集」より